

りまで致しますよ」  
とにこ〜くしていらした。

食後の散歩は私達の娯樂の一つだ。夕暮きの町を離れた西片町を、から橋の邊から一週するのは本舎に居ては味ひ得ぬ所である。學者町の夕暮、薄明の光に表札を読むのも一種の興味がある。時には静かな琴の音も流れて来る。夢の様なローマンスを思ひながら、はた勝手な熱を吹きながら二人三人、このゆかしい通を占領し得るは實に嬉しい。

黙學の鐘がなる、暫くすると建物全体が沈黙に入つて了ふ。世界はたゞ自分ある許り、稍獨座に近い感を得られないでもない。ハラリと返す頁の音、快く走るペンの音、其音に一輪ざしのひなげしがゆらぐ。この静けさとこのロマンチックな花の匂とが、しつくり合つてこゝに森川町の夜の氣分があらはれる。あゝどうして半町出れば瓦斯の灯がかがよふ電車道があると思へよう。終りの鐘がなる。塵拂ふとて觸れる電燈の球のぬ

くもり。私達は顔を見合せて静かに笑ふ。樂しげなさゝめきが洩れて来る、お隣か、食堂か、沈黙は柔らかなさとなつかしさで色付けられる、而かも尙中心は依然として静である、やがて消燈の偉大な深い沈黙が、のつそりやつて来る、窓は一つ〜暗の中に融け去つて七時間の深い睡に入つたふ。(5.26)(S)

(二)女子教育に関するもの

明治

成瀬仁藏 女子教育 嵩山堂 二九 二 四〇  
諸名 士 教育大家女子教育論集 普及社 三〇 一一 五〇

○育成會 實驗教育叢書第四編 近世女子教育法 同文館 三二 二 二五

○下田次郎 女子教育 金港堂 三七 二二、〇〇

村上專精 女子教育管見 金港堂 三八 二 四五

澤田順次郎 女子教育論 讀賣新聞社 四〇 一〇 四五

○ラスキン原著 女子の本分 金港堂 四一 八 三〇

○下田次郎譯 女子教育に就いて六合館 四二 二

小野竹三 女子教育に就いて六合館 四二 二

西山慈治 お花は如何にして教育すべきか 金港堂 四四 七 三五

○谷本富 女子教育 實業之日本社 四四 一一、〇〇

フエネロン原著 女子教育論 金港堂 六〇

大木太藏譯 女子教育論 金港堂 六〇

土屋つね

愛知縣

一、名古屋史談(庵原小金吾)

なごやまつり(伊勢門水)

愛知縣紀要(愛知縣)

愛知縣寫眞帖(愛知縣)

愛知縣案内(名古屋經濟會)

二、無し

三、婦人會(松操會………松の操月刊)

大正義會 一德會 市立第一幼稚園母の會

四、無し

岩手縣

初鹿野とみ

一、郷土の地理に關しては當地等は何等見るべきものも之無くやはり地名辭書位のものに候はん

歴史は南部史要(原敬著)平泉誌などいふもの之

有るのみ其他言語文學土俗等の編輯物なども見

あたらず他に比して非常に未開の様感じ申候

二、無し

三、社會教育としては通俗講演會時々開かれ先日も

久留島先生を聘し候其他は之無く候

四、習字は私は大体に於て校長先生の御説御もつと

もと存じ申し候

イ、字體は楷一體にては余に限られて不便な

らずやと考へ居り候只三体までの必要はな

く楷草の二體位にては如何にやと存じ候

ロ、字の大ききにつきては校長先生の御説の通り

りと切に存じ候されど新入學して一年間は

生徒は大きく習はしむる方よろしからんと

存じ候

作文は自分が教へて見て切に複雑なるをうるさ

く感じ申候校長先生の御説御尤と存じ居り候

山口縣

佐藤たみ子

一、柳井案内 神田靜江氏校閱 鎌倉孤燈編

山口縣各地の分はそれ〜各校より報導ある

べきと考へられ候につき當地の分文申上候

二、無し

三、佛教婦人會 放光婦人會 柳井婦人會は企圖中

にて近々開かるゝ筈に候

四、習字は細字練習に重きを置き作文は國語教科等

と相關連して課するも下級生には書牘文の國語

文を多くし上級生には普通文と半々にし其十分